

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算早見表

1. 前提確認（事業用・金額・按分）

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	購入したスマホが事業利用のためであることを確認した - 基準・補足：私用利用部分が明らかな場合は、事業使用割合（按分率）を確定する。
<input type="checkbox"/>	取得価額（機種代金）が10万円未満か／10万円以上かを判定した
<input type="checkbox"/>	取得価額が10万円以上30万円未満に該当するか確認した - 基準・補足：少額減価償却資産の特例（資本金が1億円以下である一定の法人が対象）。
<input type="checkbox"/>	取得価額が10万円以上20万円未満に該当するか確認した - 基準・補足：一括償却資産（3年均等）の対象になり得るレンジ。

2. 処理区分の決定（どの扱いにするか）

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	10万円未満の場合、「消耗品費」で当期費用処理すると決めた
<input type="checkbox"/>	10万円以上の場合、「固定資産として処理」する前提で検討を開始した
<input type="checkbox"/>	(該当する場合) 少額減価償却資産の特例を適用できる要件を満たすか確認した - 基準・補足：青色申告の法人／従業員500人以下／年合計300万円以内／1台10万以上30万未満。
<input type="checkbox"/>	少額減価償却資産の特例を使う場合、当期に全額を「消耗品費」で計上すると決めた
<input type="checkbox"/>	(該当する場合) 一括償却資産（3年均等）を採用すると決めた - 基準・補足：1台10万円以上20万円未満が対象。
<input type="checkbox"/>	通常の減価償却（資産計上＋每期償却）を採用すると決めた（特例・一括償却を使わない場合）

3. 耐用年数の決定（通常の減価償却を採用する場合）

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	利用実態に即して最も近い資産区分を選択する -耐用年数を10年（電話設備・通信機器相当）とする -耐用年数を4年（パーソナルコンピュータ相当）とする
<input type="checkbox"/>	耐用年数の候補を4年（パーソナルコンピュータ相当）として検討した
<input type="checkbox"/>	実態（買い替え目安、バッテリー劣化が2～3年程度など）も踏まえ、採用年数（4年または10年）を決定した
<input type="checkbox"/>	採用した耐用年数の理由（どの性質に近いと判断したか）を記録した

4. 減価償却費の計算（採用区分ごと）

4-1. 一括償却資産（3年均等）の場合

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	年額を「取得価額 ÷ 3」で計算した（端数処理ルールがある場合は社内ルールに従った）
<input type="checkbox"/>	3年間、各期で均等に費用計上する前提を確認した

4. 減価償却費の計算（採用区分ごと）

4-2. 耐用年数4年・定額法の場合（例：取得価額12万円）

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	器具・備品についての償却方法が定額法であることを確認した。
<input type="checkbox"/>	定額法の年額を「取得価額 × 0.25」で計算した - 基準・補足：耐用年数4年の定額法の償却率を0.25として計算する。
<input type="checkbox"/>	例：取得価額12万円なら「 $120,000 \times 0.25 = 30,000$ 」を確認した

5. 仕訳の入力（購入時・決算時）

5-1. 10万円未満（消耗品費）の場合

チェック	注意事項
<input data-bbox="160 401 202 443" type="checkbox"/>	購入時に「消耗品費／現金（または預金・未払金等）」で計上した - 基準・補足：支払手段に応じて貸方科目を選ぶ。

5. 仕訳の入力（購入時・決算時）

5-2. 少額減価償却資産の特例（全額費用計上）の場合

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	購入時に「消耗品費／現金（または預金・未払金等）」で全額計上した

5. 仕訳の入力（購入時・決算時）

5-3. 一括償却資産（3年均等）の場合（例：取得価額12万円）

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	購入時に「一括償却資産 120,000／現金 120,000（等）」で資産計上した
<input type="checkbox"/>	決算時に「減価償却費 40,000／一括償却資産 40,000」で当期分を計上した（複数の一括償却資産がある場合は、その事業年度に取得した一括償却資産をまとめて処理します。） - 基準・補足：年額＝120,000÷3＝40,000。

5. 仕訳の入力（購入時・決算時）

5-4. 通常の減価償却（例：耐用年数4年・定額法・取得価額12万円）の場合

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	購入時に「備品 120,000／現金 120,000（等）」で資産計上した
<input type="checkbox"/>	決算時に「減価償却費 30,000／備品 30,000」で当期分を計上した - 基準・補足：年額＝120,000×0.25＝30,000。

6. 証憑・根拠の保管（処理の再現性確保）

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	取得価額の証憑（請求書・領収書等）を保管した
<input type="checkbox"/>	選択した処理区分（消耗品費／特例／一括償却／通常償却）の理由を記録した
<input type="checkbox"/>	耐用年数（4年または10年）を採用した理由と計算根拠を記録した

チェック漏れ防止のための注意事項

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	取得価額の区分（10万円未満／以上、10～20万円、10～30万円）を最初に確定させること。
<input type="checkbox"/>	10万円以上は、特例・一括償却・通常償却のどれを採用するかを先に決め、計算と仕訳を統一すること。
<input type="checkbox"/>	通常償却は耐用年数の選択が発生するため、採用理由を必ず記録しておくこと。
<input type="checkbox"/>	期中の購入仕訳と、決算時の償却仕訳の両方が必要な処理があるため、決算時チェックを必ず実施すること。

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算「早見表」

1) まずは金額で処理を決める（分岐早見表）

取得価額（1台あたり）	主な処理区分	勘定科目（例）	計算の考え方	仕訳タイミング
10万円未満	費用処理	消耗品費	その期に全額費用	購入時のみ
10万円以上	通常の減価償却（資産計上）	備品／減価償却費	定額法：年額＝取得価額×償却率	購入時＋決算時
10万円以上30万円未満	少額減価償却資産の特例を使用（※要件あり）	消耗品費	その期に全額費用	購入時のみ
10万円以上20万円未満	一括償却資産（3年均等）	一括償却資産／減価償却費	年額＝取得価額÷3	購入時＋決算時

※ 少額減価償却資産の特例（10万以上30万未満の全額費用計上）は、青色申告の法人・従業員500人以下・年間合計300万円以内などの要件を満たす場合に検討対象。

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算「早見表」

2) 耐用年数の選び方（通常の減価償却をする場合）

選択肢	考え方	耐用年数	採用理由の書き方例
通信機器寄り	電話設備・通信機器として扱う	10年	通話・通信機能を主とする運用のため
PC寄り	パーソナルコンピュータ相当として扱う	4年	アプリ・ネット利用を前提とした情報端末として運用のため

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算「早見表」

3) 計算式 早見表 (代表パターン)

処理区分	年額 (目安)	計算式
一括償却資産 (3年均等)	取得価額の1/3	年額 = 取得価額 ÷ 3
通常の減価償却 (耐用年数4年・定額法)	取得価額 × 0.25	年額 = 取得価額 × 0.25

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算「早見表」

4) 仕訳 早見表（そのまま転記できる形）

A. 10万円未満（消耗品費で処理）

購入時

- 借方：消耗品費 / 貸方：現金（または預金・未払金等）
摘要：スマホ購入（事業用）

B. 少額減価償却資産の特例（10万以上30万未満・要件満たす場合：全額費用）

購入時

- 借方：消耗品費 / 貸方：現金（または預金・未払金等）
摘要：スマホ購入（少額減価償却資産の特例）

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算「早見表」

4) 仕訳 早見表（そのまま転記できる形）

C. 一括償却資産（10万以上20万未満：3年均等）

購入時

- 借方：一括償却資産 / 貸方：現金（または預金・未払金等）
摘要：スマホ購入（一括償却資産）

決算時（年額計上）

- 借方：減価償却費 / 貸方：一括償却資産
摘要：スマホ一括償却（当期分）

スマホの耐用年数・減価償却 仕訳&計算「早見表」

4) 仕訳 早見表（そのまま転記できる形）

D. 通常の減価償却（10万円以上：資産計上＋每期償却）

購入時

- 借方：備品 / 貸方：現金（または預金・未払金等）
摘要：スマホ購入（資産計上）

決算時（当期分計上）

- 借方：減価償却費 / 貸方：備品
摘要：スマホ 減価償却（当期分）

※2026年2月時点の情報をもとに作成しています